

講演会

7/29

2012

# ネアンデルタール人 再発見の物語と 日本の旧石器研究

ネアンデルタール人骨が出た小フェルトホーファー洞窟の残りの部分を掘り当て、そこで発見された骨片が模式倣本人骨の大腸骨に適合して、場所が特定された。写真の赤白に塗り分けられたボールの部分。右のネアンデルタール人は金属板を打ち抜いたシルエット。いまは付近が保存され遊歩道を回って見学できる。

主催 日本旧石器学会

共催 明治大学黒耀石研究センター



おの あきら  
講師 **小野 昭** 日本旧石器学会会長

1946年上越市生まれ。現在、日本旧石器学会会長、明治大学黒耀石研究センター長。博士（文学）北海道大学。専門は先史考古学で、第四紀学諸分野との緊密な協同により課題に取り組む。近年は環境変動と人類活動の関係の解明、比較考古学の基礎づけにあたる。アジア旧石器協会副会長も務める。

■ 日時 **2012** 年 **7** 月 **29** 日(日)

PM 1:30 - 3:00

■ 場所 明治大学リバティタワー10階1103教室

会場は、中央線御茶ノ水駅下車、徒歩5分です。

■ 聴講をご希望の皆様へ

聴講は無料で、申込みはいりません。

教室の定員は80名で、定員となり次第締め切らせていただきます。お早めにお越しください。

■ お問い合わせ 日本旧石器学会広報委員長 堤 隆 まで

(電話 浅間縄文ミュージアム 0267-32-8922)